



2024年1月3日(水)～7日(日) 全日本教職員連盟

第39回日本教師台湾訪問研修

1月3日から7日までの5日間、前田晴雄全日教連委員長を団長とし、全国各地から参集した計25名の教職員で「日本教師台湾訪問研修団」を結成し、台湾を訪問し教育交流を行いました。徳島県教職員団体連合会からも3名の会員が参加しました。

能登半島地震及び羽田航空機事故の影響により、その実施が危ぶまれましたが、幸い搭乗機の予定変更はなく、また台北駐日経済文化代表処及び台湾省教育会、台湾教育省も「是非、予定通り実施してほしい」との意向であったことから予定通りの実施に踏み切りました。

台湾では、どの方からもまず能登半島地震に対するお見舞いの言葉をいただき、日本と台湾の絆を改めて感じることができました。

今回は、台北と新竹の2都市を訪問しました。新竹では建功小学校において、児童の歌とダンスの熱烈歓迎を受けたあと「イノベーション教育」について学術検討会を実施しました。そこでは台湾の最新の教育事情について説明を受け、参加者は熱心に質問する等、積極的に意見交換を行いました。

また、5年前に開校したばかりの新設校である関埔小学校の見学では、斬新な校舎設計とコンセプトに圧倒されました。学校を学ぶだけでなく体験し生活する街の一部と捉える発想は日本の学校の在り方についても考えさせられる非常に有意義な機会となりました。学校だけではなく行政機関にも訪問しました。新竹市教育委員会では、科学技術都市(半導体等の生産NO.1)である新竹の特徴をいかし

た最先端教育への取組について説明を受けました。会場となった新竹市役所は、レンガ造りの重厚で荘厳なつくりで、日本統治時代からずっと使用されているとのことと歴史の重みを感じました。

さらに日本の文部科学省にあたる台湾教育省にも訪問することができました。ここでは台湾全土の教育の方向性について説明を受けるとともに、日本と台湾の共通の課題である「ICT 教育」「いじめ・不登校問題への対応」等、教育課題について意見交換を行い、共通の課題やそれぞれの違いを見出し、お互いの教育の方向性について考えることができました。

